

岩手医科大学附属病院の移転に係る対応について

平成 26 年 8 月 26 日
市 長 公 室

1 これまでの経過について

- 平成 14 年 9 月 24 日 岩手医科大学が附属病院と大学施設の移転を公表
平成 16 年 1 月 26 日 岩手医科大学総合移転整備計画「基本構想」策定
- (1) 医学部、歯学部、教養部及び全学部関連施設は矢巾町キャンパスに移転する。
 - (2) 矢巾町キャンパスは、医学部・歯学部附属病院を統合した本院機能を持った800床規模の特定機能病院とする。
 - (3) 内丸地区は、医学部・歯学部附属病院を統合した外来を中心とした250床規模のメディカルセンターとする。
 - (4) 全学を挙げた体質改善と経営改善により、計画的に事業資金の確保を行う。
- 平成 19 年 3 月 28 日 教養部，薬学部落成
平成 23 年 3 月 8 日 医学部，歯学部基礎部門落成
平成 24 年 12 月 19 日 岩手医科大学が附属病院移転に係る基本方針を公表
- (1) 矢巾地区について
 - ア 特定機能病院として1,000床規模の新病院の整備を行う。
 - イ 小児・周産期・救急部門の一体化と機能拡充を図り，効率的かつ安定した高度医療提供体制を構築していくことを目的として，統合医療センター（仮称）の整備を行う。
 - ウ 新病院は，平成30年度内の開院を目指す。
 - エ 新病院の規模は，8万5千～10万㎡，12～13階建を想定している。
 - オ 救急の関係から，高速道路からのアクセスの利便化についても要望している。
 - カ 新病院の建設に併せて，道路の幅員と街並みの整備を含めて検討する。
 - (2) 内丸地区について
 - ア 内丸地区には，現循環器医療センターの建物

と歯学部エリアを活用し、歯科医療センターを併設した50床規模の内丸メディカルセンター（仮称）を整備する。

イ 内丸メディカルセンター（仮称）は、盛岡市内はもとより県内外から患者のアクセスがしやすい内丸の利便性を最大限に生かし、高度な外来診断中心のセンター機能を整備する。また、診断のみならず、高規格の診療機器をそろえ、PET・リニアック先端医療センターと連携し、がん外来化学療法、放射線療法などを含む外来で可能な高度医療を提供する。

ウ 開院年については、矢巾新病院と同時期に整備計画として進める。

エ 移転後の附属病院跡地については、今後、県及び市と相談しながら、将来的な再開発計画を進める。

平成 25年 4月 10日 岩手医科大学から市へ検討要請

- (1) 現行の一次・二次救急及び岩手県高度救命救急センター（三次救急）機能を矢巾に移行させる計画である。
- (2) 附属病院移転後の盛岡地区における救急患者の受入態勢について早急な対応検討が必要。
- (3) 一次救急は市町村、二次救急は二次医療圏単位で行政指導による計画策定が必要。
- (4) 「盛岡地区二次救急医療対策委員会」での協議・検討が必要

11月 5日 盛岡商工会議所から市へ要望

- (1) 附属病院移転後の跡地活用については、岩手医大や盛岡商工会議所等の関係機関、地域住民との協議の場を設け、盛岡市全体のまちづくりに寄与するゾーンとなるよう配慮してほしい。
- (2) 救急医療体制について、附属病院の岩手県高度救命救急医療センターが大きな役割を担っており、移転後は、盛岡市内の救急医療水準が低下しないよう新たな救急医療体制を早期に示してほしい。

11月 21日 盛岡市医師会から市へ要望

岩手医科大学附属病院矢巾移転後の救急医療体制の構築についての協力と周辺市町村の協力にリーダーシップを発揮することなどを内容とする「盛岡

市民の健康・医療・福祉に関する盛岡市医師会からの提言」が提出された。

平成 26 年 1 月 17 日 盛岡広域首長懇談会に専門部会として、「救急医療部会」を設置

5 月 29 日 「第 1 回岩手医科大学附属病院移転に伴う事務連絡会」を開催（岩手県，盛岡商工会議所，岩手医科大学，盛岡市）

7 月 16 日 岩手医科大学が総合移転整備計画事業工程の見直しを公表（公表内容は別紙 2， 3）

2 岩手医科大学総合移転整備計画事業工程の見直し内容について

【事業工程】

(1) 内丸メディカルセンター（仮称）

年度	当初計画	変更計画
26	歯学部校舎解体準備	
27	歯学部校舎解体 内丸メディカルセンター（仮称）建設着手	
28	↓	
29	↓	
30	内丸メディカルセンター（仮称）開院	
31		既存施設を利用し、内丸メディカルセンター（仮称）を開院
32 以降		内丸メディカルセンター（仮称）を新たに建設

(2) 新附属病院（矢巾町）

開院は，平成 31 年の予定。

3 岩手医科大学附属病院の移転に係る跡地活用等について

(1) 附属病院移転に伴う影響と課題について

患者や職員，関連事業者等，多くの関係者が出入する施設の移転により，交流人口が減少し，飲食や物販の商店街などに影響を及ぼすことが懸念される。

附属病院がこれまで受け入れてきた約 22,000 人の一次救急患者を他の医療機関に集中させない体制整備が必要となる。また，盛岡保健医療圏域の二次救急医療体制整備が必要となる。

(2) 跡地活用の検討について

附属病院移転後の跡地活用については、岩手県、盛岡商工会議所、岩手医科大学及び盛岡市の四者で検討を進めることとし、平成26年5月29日に第1回の「岩手医大附属病院移転に伴う事務連絡会」を開催したところであり、今後においても随時開催し、意見交換することとしている。

また、附属病院移転により、市街地の空洞化が懸念されることから、次期中心市街地活性化基本計画策定を見据えた検討を行う必要がある。

*跡地の区域図（別紙4）

(3) 救急医療体制の検討について

附属病院移転に伴う盛岡保健医療圏における救急医療体制を検討するため、平成26年1月17日に盛岡広域首長懇談会に救急医療部会を設置したところであり、今後においても盛岡広域圏の市町及び郡市医師会等と協議することとしている。

なお、附属病院が矢巾キャンパスに移転した後は、内丸地区については初期救急を含めた病院機能は、新たな施設が整備されるまでの間、時限ではあるが既存施設を継続して、その機能は維持される予定である。

総合移転整備事業 ~新時代の医療の実現へ~

壮大な事業の最終ステージへ

本学は、建学以来、盛岡市の中心部、内丸地区にキャンパスを構え、数多くの医師、歯科医師の養成と地域医療の充実発展に最大限の力を尽くしてきました。しかし、最先端の医療に対応した教育、診療を行うには、内丸キャンパスは狭間で規模が困難なため、新天地への大学及び病院の総合移転という壮大な計画を策定しました。

平成19年には、矢巾キャンパスを開校し併せて医学部を新設。そして平成23年、矢巾キャンパスに医学部・歯学部を移転し、共同研究部門を移転し、

わが国で初めて医学部・歯学部・薬学部の3学部を同一キャンパスに加え、各系ともに医療系総合大学として歩みはじめました。

現在は、総合移転整備計画の最終段階となる「附属病院移転事業」を推進しており、矢巾キャンパス北側（盛岡地区）への附属病院移転整備計画と内丸キャンパスの再整備計画を進めています。

秀峰岩手山を望む矢巾キャンパスの緑豊かな美しい自然は、豊かな人間性を涵養し、「人」と「生命」に真摯に向き合う「滅の医療人」を育てています。

■附属病院移転事業スケジュール(予定)

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
内丸地区(仮称)	基本設計	実施設計	着工(仮称)	着工(仮称)	着工(仮称)	着工(仮称)	着工(仮称)
内丸地区(仮称)	基本設計	実施設計	着工(仮称)	着工(仮称)	着工(仮称)	着工(仮称)	着工(仮称)

北日本の核となる新附属病院

平成23年に、矢巾キャンパス北側の盛岡地区に約18万㎡の附属病院移転用地を取得し、第一工区の造成工事が完了。平成24年には敷地内にドクターヘリ基地・ヘリポートを建設し、ドクターヘリの運航を開始しています。新病院の建物規模は6万5千~10万㎡、12~13階建てを想定し、病床数1,000床を有する特定機能病院として整備を行う予定です。また、小児・周産期・救急部門の一体化と機能拡充を初め、効率的かつ安定した高度医療提供体制を構築していくことを目的として統合医療センター(仮称)を整備する予定です。この他、新病院を中心として、調剤薬局・サブライサービスなどの各機能をエリアごとに集約し、将来的な拡充や拡充にも柔軟に対応した効率的な配置計画とするとともに、周辺道路の拡幅や街並みとの一体整備など、行政とも連携をとりながら地域の活性化も視野に入れて事業を進める予定です。北日本の核となる病院として、地域医療・高度医療提供体制の益々の充実を目指します。



内丸メディカルセンター(仮称)

附属病院移転後の内丸地区には、50床規模の高層外来診療棟を有する内丸メディカルセンター(仮称)を整備します。センターは、内丸地区の利便性を最大限に活かし、盛岡市内はもとより県内外からの患者さんがアクセスしやすい病院として、外来機能の充実を図ります。また、PET-リニアック生体顕微鏡センターと連携し、放射線療法やがん外傷化学療法などを含む、外来で可能な高度医療を提供。矢巾新病院と機能を分担しながら地域医療の中核病院としてその機能を高めたいと考えています。



平成 26 年 7 月 16 日

岩手県県政記者クラブ
岩手県教育記者クラブ
盛岡市市政記者クラブ 各位

学校法人岩手医科大学

岩手医科大学 総合移転整備計画 事業工程の見直しについて

岩手医科大学総合移転整備計画は平成 14 年の矢巾町への移転発表以後、11 万坪の土地の取得を行い、農地転用・開発行為を含めた土地造成、平成 19 年には教養部移転と薬学部の開設、そして平成 23 年には医学部・歯学部の基礎学部の移転を完了し、現在は平成 31 年の附属病院の移転に向け、土地造成とエネルギーセンター建設工事の準備と病院設計を進めております。

また、内丸メディカルセンター（仮称）については、1,000 床を超える病床を有する 2 つの病院の同時開院を避けることとして、附属病院移転の前年となる平成 30 年の開設を目標として計画を進めてきました。

附属病院が移転した後の跡地利用については県民、市民の関心も高く、岩手県・盛岡市・盛岡商工会議所を含め「今後の盛岡市の中心市街地の空洞化対策と将来の盛岡市の街づくり」をどのようにすべきか、どのようにあるべきかの意見交換を行っています。

その中で、岩手医科大学移転後の跡地は盛岡市中心市街地の空洞化の抑止、県都盛岡の活性化のためには、非常に重要な場所であるとの共通認識を得る中で、跡地活用については内丸メディカルセンター（仮称）の計画敷地を含めた岩手医科大学移転跡地全体での活用方法を時間をかけて検討していくことでの確認がされています。

加えて、災害復旧事業の本格化、東京オリンピックの決定、消費税増税などによる社会経済情勢の変化は、本学が進める移転事業に対しても、人件費・資材高騰などとして想像を超える大きな波として押し寄せてきています。

これらのことから、今年度から予定していた歯学部の解体、内丸メディカルセンター（仮称）の建設事業は一旦中断し、大学移転跡地利用計画として改めてスタートを切ることとしました。なお、計画の推進にあたっては、国からの支援を受けることが可能となる中心市街地活性化計画などを考慮に入れながら、盛岡市中心市街地の空洞化の抑制と活性化に向け、官民一体となった街づくりを進める予定です。

今後は岩手県・盛岡市・盛岡商工会議所・岩手医科大学だけではなく、有識者・県民・市民の多くの意見に耳を傾けながらより良い街づくりに向けた取組を行う予定です。

なお、附属病院が矢巾キャンパスへ移転した後の内丸地区の初期救急を含めた病院機能（内丸メディカルセンター（仮称））については、時限とはなりますが既存施設を継続してその機能を維持していく予定です。

関係者の皆様には今後とも、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

お問合せ先
岩手医科大学 企画部
総合移転計画事務室
電話 019-651-5111（内線 7028、7025）

岩手医科大学 総合移転整備計画／事業工程の見直しについて

別紙3
岩手医科大学
記者会見資料 (H26.7.16)

■事業工程(当初計画)

事業名	H26年度				H27年度				H28年度				H29年度				H30年度						
	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12
■0敷地造成	第1期工区造成工事																						
■エネルギーセンター					補助対象事業				補助対象事業														
■病院移転関連									病院建設工事														
□保育園													保育園建設										
□図書・カフェ																	図書・カフェ建設						
□ビルセンター	ビル建設																						
■ビルセンター	第1期ビル建設																						
					第2期ビル				PLMビル建設				ビル建設				ACDビル建設						

■事業工程(変更計画)

事業名	H26年度				H27年度				H28年度				H29年度				H30年度				H31年度				H32年度				H33年度				H34年度				H35年度				H36年度											
	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2										
■0敷地造成工事	第1期工区造成工事																																																			
■エネルギーセンター工事					補助対象事業				補助対象事業																																											
■病院移転関連事業									病院建設工事																																											
□保育園													保育園建設																																							
■教育学部・メディカルセンター関連事業																																																				
■医学部新館整備関連事業																																																				
■都市再生整備計画関連事業																																																				

第2期 盛岡市 中心市街地活性化計画 (H25～H29)

次期 盛岡市 中心市街地活性化計画 (H30～)

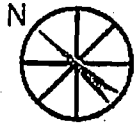
中心市街地活性化計画 協議検討期間
(県・市・商工会・岩手医大)

事業実施予定期間

◆ 本部地区
Uchimaru Campus

別紙 4
岩手医科大学から資料提供

内丸地区
面積 約 2.0ha



至岩泉

国道455号

本町通

至教護部地区

8

木の花会館
Konohana-Kaikan

5号館 (基礎医学講座)
Building No.5

3・4号館 (基礎医学講座)
Building Nos. 3・4

図書館 Library

東病棟
高度救命救急センター
East Wing / Advanced Critical Care
and Emergency Center

PET・PET-7
PET医療センター

歯学部
School of Dentistry
附属病院歯科医療センター
University Hospital Dental Center

2号館
医大ホール
(事務・研究・講義棟)
Building No.2

6号館
(西病棟)
Building No.6
(West Wing)

臨床講堂

中病棟 Central Wing

外来棟
9・10・11号館
Outpatient Department

8号館 / 7号館
(診療・研究棟)
Building No.7

外来駐車場
Parking Lot

日赤乳児院

創立60周年記念館
(循環器医療センター)
60th Anniversary Memorial Hall
Memorial Heart Center

1号館 (管理・研究棟)
Building No.1

中央通一丁目地区
面積 約 1.0ha

盛岡地方裁判所
District Court

岩手県庁
Pref. Office